

地域の現状

稚内市のメークマ海岸防災林は、1947年頃、荒廃が進んでいたが、これまでアカエゾマツ等を防風柵等で囲って列状に密植する等の海岸林の造成進めてきました。

植栽後40年以上を経過したことで林冠が混み合う等の状況となったことから、より健全な海岸防災林を造成していくため、学識経験者を含めて検討会を重ね、施業方針を平成26年度に決定した。



林内は、うっ閉した状況で下層植生の生育が厳しい状況となっている。



宗谷流域林業活性化協議会で現地検討会を実施し、民有林との情報交換を図った。(H26)

平成27年度取り組み

●本数調整伐の実施

平成27年度、森林整備計画の早期進行のために本数調整伐を5.70HA実施

- ・本数調整伐は超過密状態（収量比数0.9以上）の箇所より着手
- ・伐採方法は残った樹木の損傷と作業の効率性や安全性を考慮し列状の伐採
- ・伐採の方向は、海からの強風による樹木の倒伏被害の防止を考慮して1伐3残で伐採を実施しました。
- ・伐採した木は、下層植生の回復や病虫害の防止を考慮して林外へ搬出しました。

搬出後の強風により残存木の枯死などは発生していません。

●普及に向けたデータの収集

代表的な林分にプロットを設定し施業後の林分状態をモニタリング調査をし、事業実行上の課題の整理や、施業前後の調査データを比較・検証、施業の進め方等、今後の施業検討・紹介等に利用できるようまとめています。

今年度実施した事業実行上の課題としては、林分全体が超過密な状況であることから列状間伐であっても、伐採木が倒れないことや搬出機械による残存木の損傷を最小限することが課題として挙げられています。今後も作業効率などを勘案し検証していきます。

●技術の交流と普及

民有林においても海岸防災林等の整備行っていることから、宗谷流域林業活性化協議会（宗谷総合振興局、森林管理署、市町村、事業体）の主催で、有識者を招いて現地検討会を開催し、本数調整伐後に施業上の課題など海岸防災林における施業に関する情報交換及び技術の交流を図っています。



本数調整伐後の状況



宗谷流域林業活性化協議会で現地検討会を実施し、民有林との情報交換を図った。

今後の取り組み

平成27年度以降、本数調整伐等の森林整備を計画的に実施し、施業の検証（PDCA）を行う。また、北海道内には、民国含めて同様の海岸林等が造成されていることから、本検討がアカエゾマツ等の海岸防災林の施業モデルとなることを目指す。